

東北地方太平洋沖地震

静岡県薬剤師会第四次薬剤師ボランティア派遣

期間 : 平成23年4月22日(金)～4月25日(月) 3泊4日

派遣先 : 福島県内

4月22日 10:00 静岡県薬剤師会館にてミーティング後、出発

16:20 福島県薬剤師会館 到着・支援物資の積み下ろし後、ミーティング

17:40 宿泊先 到着

4月23日、24日

9:00～17:00

あづま総合運動公園体育館内での業務

(業務内容) 机・椅子を並べ、倉庫より医薬品を運び仮設調剤薬局とする

9:00～OTC薬の投薬

14:30～日赤医療チームによる処方箋の調剤

17:00 業務終了

4月25日 9:00～12:00 OTC薬の投薬

14:10 福島県薬剤師会館へ移動し、業務終了の報告を行った・報告後、静岡県薬剤師会館に向けて出発

21:30 静岡県薬剤師会館 到着・任務完了の報告後、解散

“災害時緊急車両”と前後左右に表示した車を運転し、静岡県薬剤師会から福島県へ向けて出発した。東北道に入り、しばらくすると地震で瓦が落ちブルーシートをかけられた家屋が見え始めた。

福島県に入ると路面の状態が悪くなり、ブルーシートのかけられた家が多く見られるようになった。福島西ICで下り福島県薬剤師会館へ向かう途中、崖崩れにより倒壊している家があり地震の被害の大きさを窺い知ることが出来た。

到着した深夜、震度4程度の揺れを感じ被災地に来たことを実感した。その後も何度も揺れを感じ、その度に辺りを見回すのだが、何も反応しない周囲の状況から、いつの間にか、私も反応しなくなっていった。

私は、静岡県薬剤師会から借りた赤い防災ベストを着用し、派遣場所であるあづま総合運動公園に向かった。この避難所の定員は1400名。一時は、1700名もの避難者がいたが4月22日現在、700名弱まで減少。

震災から1ヶ月経過し、支援物資の整理・業務の流れ等もある程度出来上がっていたので、業務に支障をきたすような混乱はなかった。

避難所の様子は、ホールにはボランティア用受付があり、そこでは館内放送でイベント案内もしていた。「プロのダンスチームと一緒に踊るイベント」「避難者向けの格安旅行ツアー」「子供向けアニメ映画を見に映画館へ行くツアー」等、様々であった。

また、そのホールには支援物資の配布・レンタルの場所もあった。その奥に進むと薬剤師会のお薬相談コーナー兼臨時調剤薬局、その隣に日赤医療チームの診療所があった。

調剤・OTC薬の配布・診療の度に、被災者は何度も住所と氏名等を記入してもらわなければならない、申し訳なく思ったが、それを億劫がる患者もなかった。そればかりか初日に対応した70歳代の女性(喘息)が翌日にもみえて、何度もお礼を言ってくれたことが嬉しかった。

慢性疾患患者で移動手段を持たない高齢の女性は、避難所と近隣の総合病院（車で10分）への無料送迎が明日からはないのだと言う。続けて『避難所の中の日赤の診療所も、初めは1日中診療してくれていたのに今は午後だけ。そのうちなくなってしまうんじゃないか・・・』と不安そうに口にした。

福島県薬剤師会の方がおっしゃっていた。『近隣の小さな避難所を閉鎖して、最終的にあずま総合運動公園と会津若松、2箇所の避難所にまとめていくようだ。』という言葉に、また避難所の人数が増えた時、偏った支援物資・縮小しつつある診療チームがどのようなになるのか。その時の対応が気になった。

避難所の食生活に関しては、支援物資自体はあるがその偏りが問題と思えた。ニュース等で頻繁に報道されていた炊き出しは、実際には整理券が必要であり毎日行われぬ。

その場合はおにぎり・パンのみの食事となるため、栄養のバランスも気になった。食事での改善・提案もままならず、ビタミン剤も不足していた。また、長い避難所生活でほとんど歩くことがなくなり足腰の痛みを訴える方も多くみられた。

ライフラインについて、出発前に静岡県薬剤師会から聞いていた通り「電気・ガス・水道は問題なし。食事処は90%の営業、コンビニも通常営業」であった。ガソリンスタンドは通常通り営業し、行列もなかった。

現地の昼食は、避難所から車で10分くらいの場所にある蕎麦屋へ行った。会計の時、『災害支援の方ですか。』と声をかけられた、はいと答えると『福島のためにありがとうございます』と感謝された。

3日目の夜は、宿泊先から車で30分の場所にある温泉地へ。何軒もある温泉旅館には多くの福島県ナンバーの車が並んでいたが、宿泊客の姿はあまり見られなかった。ここでも帰り際に日帰り入浴にも関わらず『ありがとうございます。』と何度も何度も言われた。

最終日、近くにある公園にて放射線量が高くなり、外出1時間規制が発令された。この時はメルトダウンしていないと報道されていた時期だったためか、周囲の特別な反応も見受けられなかった。

平成23年3月11日（金）東日本大震災発生。その時に先ず思ったのは、震災ボランティア派遣のことだった。生活している富士市でも計画停電が始まり、帰宅途中の道は真っ暗。信号は消えて大渋滞。しかし、現地では自分たちが不自由に感じる以上以上の困難に立ち向かっているのだ。

そう思うと何かせずにはいられなかった。

今回、貴重な体験をさせて下さった私の派遣希望を快く承諾し応援して下さい下さった方々、又、四日間を共に過ごした現地の皆さん、小笠支部の奥津さん、中村さんに感謝致します。

今後も微力ながら、自分に出来ることを続けたいと思います。



以上